

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立山鼻小学校

1 本年度の重点目標

笑顔がつながる山鼻小学校

2 本年度の経営方針

- ①学ぶ力（かしこさ）の育成【自ら】 ②豊かな心（やさしさ）の育成【感じる・つながる】
③健やかな体（たくましさ）の育成【自ら】 ④信頼される学校の創造 ⑤いじめ防止

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

A：満足できる B：ほぼ満足できる C：現行をベースに改善 D：根本から見直す

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標・評価	今年度の重点目標とした学校課題は児童の実態に合わせ十分に組み入れるものであったか。	A	育てたい児童の姿を明確にし、全職員で共通理解を行う場を設けながら取組を進めた。今後も児童の実態を基に、指導の工夫・改善を行う。	A	A
	教育目標の実現に向けた学校評価のあり方は現在行われている方法でよいか。	A	児童の育ちがどうであったかを、保護者、児童、教職員が同じ観点でアンケート方式による評価を行う。また、学校関係者評価によって、より多角的な評価活動を推進する。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標の方向性は適切であり、学校として大切にしたいことが伝わってきます。また「涵養」という表現から、本来時間を要する取組を1年ごとに区切って評価だけではなく、今後も継続の視点を大切にしながら見ていけばよいと思います。 重点目標の達成に向け、引き続き保護者・児童・教職員が共通の観点で評価していくことが望ましいと考えます。 評価については、A,B,C等の基準の言語化があると詳細の分析ができるようになるのではと思いました。難しいと思いますが。 			
学習指導	学習指導要領及び札幌市の教育の重点に則り、児童の発達段階に即した適切な指導がなされたか。	A	学習指導要領や札幌市の教育の重点に則り、目指す児童の姿を共通理解した上で取組を進める。また、児童理解を丁寧に行い、指導と評価の工夫や発達段階、個に応じた指導の充実を図る。	A	A
	児童の学力を確実に高めるための授業改善の取組や指導力の向上を図ることができたか。	B	基礎的・基本的な学力の定着に向けて、ICTの活用も踏まえながら児童が意欲的に取り組めるよう学習を工夫する。また、児童一人一人の学びを支えられるよう、家庭との連携を大切にしていける。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> これから子供たちは、AIとの共存の中で生きなければいけないと思いますが、基礎的学力の向上をAIの活用でどこまで何をすればいいのかが難しいと感じています。模索しながらになると思いますが、今まで通りの基礎が必要ではと思います。 上記自己評価・改善策を通して、児童一人一人が「考える」ことを選択肢が広がってもらえたらと思います。 学習指導について、児童の実態を踏まえて丁寧に進めようとする体制を感じます。年度ごとの数値だけでなく、積み重ねの変化も見える形になることで、より分かりやすくなり、引き続き無理のないかたちで継続と改善のスタンスで進めていただければと思います。 			

生徒指導	育てたい児童像、指導の重点などの提示が適切であったか。	B	実際の児童の姿に合わせて山鼻スタンダードや山鼻ルールを作成・改善し、全校で統一した指導を行う。次年度は、学校での指導内容を家庭や地域と共有することで児童がより意識できるような環境を目指す。	A	A
	提示された項目について適切な指導がなされたか。	B	指導の統一性・一貫性を大切にす。また、キャリアパスポートの振り返りの機会を定期的に設け、個に応じた指導を行うとともに、児童が自分の育ちを見つめ直すことができるようにする。	A	A
生徒指導	学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> 児童の言葉づかいや行動に着目した課題整理は、実態に即して、そして「山鼻ルール」のように共通のよりどころをもつ取組は大切に継続していくことに意味があると思います。こちらでも単年度で結論を急がず、積み重ねを見ていければよいと感じます。 山鼻小としてのルールを示すことは、保護者も所属意識をもって子育ての視点になると考えます。現状の共有を行っていったらと思います。 学校全体として目指すものが素晴らしいので、達成状況がBなのではと思います。挨拶や言葉遣い、生活、学習ルール等の取組は素晴らしいと思います。継続し実行の中で理想が叶うと思いました。 			
安全管理	児童の安全管理体制の確立、日常の指導や緊急事態発生時の対応は十分か。	A	避難訓練や安全指導などを継続的に実施し、児童の安全に対する意識を高め、身を守る行動につなげる。また、実際に火災が起きたとき、不審者が侵入したときなど、緊急時の対応についても検討し、教職員間で共有する。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> 実際に起きた事件の共有等含め、安全指導をよろしく願います。 安全管理について、学校全体で共有しながら進めている点が、日常の取組や緊急時への備えも含めて適切と感じます。今後学校の建て替えにおいても対応が必要な項目でもあり、着実な取組と計画も必要かと思ひます。 			
情報提供	学校の情報が適切に公開されているか。	A	学級便り、学校便り等、各種お便りの他、学校HPで児童の様子を定期的に発信する。また、「すぐーる」アプリを活用し、正しい情報を素早く家庭・地域へと発信するとともに、地域に向けての発信の方法を検討していく。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校から情報提供はおおむね分かりやすく、保護者や地域に向けた発信も丁寧だと感じます。評価の数字が前年と近い点については、安定した取り組みの評価の一方、今後は変化や工夫の部分も見えやすくなることで、より理解をしやすいと感じます。 すぐーるからの情報発信は、確認しやすく良いと思います。 			
連携	学校と地域社会が双方向の連携を図ることができているか。	B	コミュニティ・スクールの導入を見越し、先進校の取組等の情報収集を進め、地域・保護者との共有を進めた。次年度は、学校運営協議会で検討した内容への取組を通して、地域・保護者・教職員が、連携するよさを実感できるようにする。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供と同様な点もあり、学校と保護者や地域との連携は丁寧にしようという取組と苦勞する点をととも感じます。今後も協力しやすいかたちで共有を続けていただければと思います。 子どもたちの健やかな成長を作るためには必要と思いますが、地域・保護者を含め様々な考えがあるので簡単ではないと感じます。 新たな取組を良いものにできるよう、連携していったらと考えます。 			
いじめ防止	いじめ対応についての共通理解・いじめ防止に向けての指導体制を、学校全体で確立・共有できたか。	A	定期的にいじめ防止定例会議を実施し、いじめ認知の基準や児童の情報共有ができた。また、学年を超えた連携体制も構築することができた。今後も教職員間の温度差が生まれぬよう、判断基準の具現化し、教職員全体で共有を図る。	A	A

<p>学校全体で、いじめの早期発見・早期対応に結びつくような情報共有や指導の実践を適切に行えたか。</p>	<p>A</p>	<p>アンケートや教育相談の定期的な実施により、児童の些細な変化に気付くことができた。また、初期段階から複数の教職員で対応にあたることで深刻化の防止に繋がった。今後は、SNS等、教員の目が届きにくい場面の未然防止に努める。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童一人一人が重要なこととして認識し続けられるよう、考える機会の提供をよろしくをお願いします。 ・いじめ防止については、見えない部分を抱える可能性のある非常に難しい点から学校全体で取り組もうとする体制づくりが大切であり、適切と感じます。小さな変化からも丁寧に見ていくことを念頭に、今後も継続した取り組みをお願いします。 			